

# 発 言

中野 裕美  
副 学 長



学で開講されたメタバース工学部のように、インターネット上の教育支援で、時間、空間、地域・地方の壁を越える変化が期待されています。

最近、DX推進という言葉を耳にする機会が増えました。多くの企業で、DX推進による業務の効率化や変革が進んでいます。DX＝デジタル変革（デジタルransformーション）とは、デジタル技術を社会に浸透させて生活を豊かに変革するという広義の意味も含みます。

## 無人店舗

近年のコロナウイルス感染防止に背中を押される形で、無人化・省人化が進んでいます。

# デジタル社会への期待



無人型のコンビニ＝豊橋市内で

韓国では、以前から無人のコンビニやカフェ店舗が増えていると話題になっていましたが、日本でも無人コンビニが登場しました。ファミリーマートは2024年までに無人店舗1000店に拡大方針を決めたと報道されました。無人店舗の場合、重量センサーやAIによる認証システムも必要になります。お酒の販売には、年齢

までスムーズにできるコンビニもあるようす。スマホに不慣れな方にとっても使いやすく、便利な無人化店舗に期待したいと思います。

無人店舗はコンビニばかりでなく、無人洋服販売店も話題になっています。ハンガーが値札替わりになり、色々ごとに分類され、購入金額のチケットを購入するシステムです。この店舗ではアナログ的因素も残っていますが、コロナ禍で、このような非接触タイプの店舗はますます広がっていくと思います。

(1面から続く)

いをし、代理で決済をしていただきました。我々のような客に対応する店員さんがいましたので、無事に食事をすることが出来ました。二つ目

てきたわけです。このよ  
うなモバイルオーダーシ  
ステムは、日本の飲食店  
でも、近年普及し始めて

「かあれば現金はほ  
こんど要らない」と云われ  
たことを思い出ししまし  
た。

乗るのをうそ  
ました。  
本学でもロボット研究  
進んでいます。センサ  
の開発も行なってい  
ます。

クルマの将来像

自動運転といふは、モ  
レールを思い浮かべま  
。コンピュータにより  
ールの上をモノレール  
規則正しく、自動運転  
ています。また、遊園  
でも自動運転の運搬車  
見ることがあります。

ないです。近年では、

1000

— 2 —

162

100

二

110

172

100

三浦半島で開発



した。以後、さまざまなもので自動運転バスの公道実証実験が行われ、21年12月末で、走行距離は3万キロを超えるそうです。運転手が乗車しなくてよい「レベル4」については、道交法の改正により、23年から限定地域であれば自動運転車によるサービスが解禁になります。

一方、ドローンタクシーはどこまで進んでいるのでしょうか。中国では、早くから開発が進み、20年に有人ドローンを使って、短距離かつ定期航路による飛行を行っています。日本でも、「空飛ぶクルマ」の開発を豊田市に拠点を持つ企業が、20年8月に有人飛行試験を成功させました。今後の運用に向けて、航空法との整合性、飛行ルールやバッテリーの高性能化、飛行時間、安定性など多くの課題がありますが、25年の大阪・関西万博でのサービス開始を目指し、取り組んでいるようです。これからは研究成 果が楽しみです。

ドラえもんの「タケコブタ」のように、人が空を飛ぶ「ジェットパック」は、20年にドバイで

飛行に成功しています。数分間の飛行でしたが、人が空中散歩できる時代は確実に近づいています。

科学技術においてよく議論されるのが、ジェンダーバイアスです。IT分野においても、アルゴリズムバイアスの事例などが報告されてきました。データ収集の際、差別、偏見による偏ったデータは、AIの学習プロセスにおいて、偏った結果を生み出します。例えば顔認証技術において、白人男性に基準を置いたため、有色系女性の認識誤差が多いのは、よく知られたバイアスの事例です。バイアスレスな開発のためには、多様な人材の参画が必要になるわけです。

デジタル化は、人々の生活を豊かにしますが、一方で社会認識を反映するバイアスを含んでいる場合もあります。誰にとっても公平で豊かなデジタル社会になることを祈念して、今回ここで筆をおきます。